

令和7年度 横浜水取沢高等学校 授業研究 研究テーマに対する手立てと振り返り

教科名	科目名	①研究テーマに対する手立て	②各科目における実践の内容	③授業研究テーマに対して、実践が有効であったかどうかの振り返り
国語	現代の国語	「読む」「聞く」活動を通して、他者の主張を適切に受け止める力を養うとともに、考えを広げたり深めたりさせる。その考えを「書く」「話す」活動を通して、相手の存在を認識した効果的な伝達の仕方考えさせる。	毎授業の冒頭で指定のトピックに対する考えを述べる「ベアワーク」を行った。互いの表現の仕方や構成の工夫等の良い点を見つづけて合うことと通して、受け手/発し手の双方の立場から「自分の内面にあるものを伝える」ことについて考えを深めさせることができた。	伝える内容を整理する力や、相手に伝わりやすい表現を考える力には向上がみられた。一方で、話しやすい空気を積極的につくったり、他者の考えをもとに考えを深めたりする点では課題がみられた。
	言語文化	古典に親しみ、言語活動を通して他者の意見に触れ、自らの考えを深めたり共感性を高めたりする。また、作品や文章の歴史的・文化的背景を学び、我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。	古典や近現代の小説を讀み味わって自らの考えや感想を言語化し、他者と意見を共有して他者の意見に対する自分の考えを伝える言語活動を行うことで、自分の考えをさらに深める。	他者の考えに他者から驚きや感動の声があがることがあり、自分とは異なる視点や感性を感じる機会となっていたと考えられる。更に、自分の考えの深まりを認識させるために、他者の意見に触れて自分の考えがどのように深まったか、生徒自身に確認させた。
	論理国語	他者との協働的な言語活動を通して、実社会において必要となる、文章を論理的に書いたり読んだりする力を育成する。自分の思いや考えを広げ、深めるのに必要な国語の知識や技能を身に付ける。	論議の精読を通して漢字、語彙、主張の伝え方等を学習し、自らのもの見方、感じ方、考え方がどのように深化したかを記述させ、読解力の向上を図った。ベア・グループワークなどの協働的な活動を行い、他者の考えにも触れる機会を多く設けた。	物語の読み込みを生徒自身が決める活動の際、自分とは異なる視点や感性を否定せず共感し理解することで、多様な考えを 수용する力が高まった。更に自分の考えの深まりを認識させるために、表面的な語課題に繋げるための取組を今後継続したい。協働的な意見を明確にする力も今後育成していきたい。
	文学国語	作品に表れているもの見方、感じ方、考え方を自分で考えることに加え、他者と協働しながら捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係性を踏まえ、作品の解釈を深めたい。	現代の小説の読解を通して、作者が生きた時代や背景から作品を制作した意図を踏まえて読解を行った。自分の考えや感想を言語化するためにベア・グループワークなどの協働的な活動を行い、他者の考えにも触れる機会を多く設けた。	人の登場人物を軸として複数のプログラムには通せることで、普段自ら離れにくいであろう人物の価値観に触れさせることができた。また他者の意見や発表を聞くことで時代を超えた人間の本性を考える契機をつくることができた。読みがれられていた理由や伝統文化の価値観を再考する機会も多かった。
	古典探究	古典作品の読解を通して、当時の人々の見方、考え方、価値観を学ぶ。そして現代に生きる自分を俯瞰して見つめ、また他者は作品をどう読み味わっているかを言語活動を通して理解する。	古典作品に登場する様々な登場人物の行動や言動の読解を通して、当時の価値観や当該作品ごとのよにより人々に受容されていたの考えさせ、自身と比較させた。またグループワークなどの協働的な活動を行い、他者の考えにも触れる機会を多く設けた。	人の登場人物を軸として複数のプログラムには通せることで、普段自ら離れにくいであろう人物の価値観に触れさせることができた。また他者の意見や発表を聞くことで時代を超えた人間の本性を考える契機をつくることができた。読みがれられていた理由や伝統文化の価値観を再考する機会も多かった。
地理歴史	地理総合	他の地域と私たちの生活文化を比較した際に気づいたことを記録に残す機会を設定する。また、この記録をもとに相手（聞き手・読み手）が理解できるように、自らの言葉で特徴をまとめる活動を行う。	単元の最初、他地域と自分たちの生活文化を比較し、そこで得られた気づきを基に単元を貫く問いを設定した。さらに、単元を通して学習した知識や考えを記録に残し、それの記録と他者の意見を共有しながら、自らの言葉で答えを導き出し、生活文化の特徴をまとめる活動を行った。	他者の考えを整理する力や、相手に伝わりやすい表現を考える力には向上がみられた。一方で、話しやすい空気を積極的につくったり、他者の考えをもとに考えを深めたりする点では課題がみられた。
	地理探究	他の地域と私たちの生活文化を比較するなかで設定した課題について、共通点や相違点に注目して情報を整理し、解決策を根拠を持って論じる活動を行う。	他の地域と私たちの生活文化を比較し、環境問題や食料問題などの世界的な諸課題について現状について紹介し合ったり、解決策についてクラスでまとめたという活動を行った。互いの考えを共有・検討し、クラスとしての取組を通じて実践するなどの探究活動を行った。	他者の考えに他者から驚きや感動の声があがることがあり、自分とは異なる視点や感性を感じる機会となっていたと考えられる。更に、自分の考えの深まりを認識させるために、他者の意見に触れて自分の考えがどのように深まったか、生徒自身に確認させた。
	歴史総合	社会的要因や背景等について考察し、他者との情報共有する機会を設け、社会的な見方や考え方を深めていく。また学んだ内容や歴史的な意義についてまとめ、記録に残す活動を行う。	社会的現象が生じた原因や背景について、現象の要因や背景などについて、考察する機会を多く設けた。また各単元や項目の終わりに、学んだ内容に対するより歴史的意義があるかを踏まえて、まとめさせ、内容を振り返る活動も行った。知識を深めさせた。	他者の考えを整理する力や、相手に伝わりやすい表現を考える力には向上がみられた。一方で、話しやすい空気を積極的につくったり、他者の考えをもとに考えを深めたりする点では課題がみられた。
公民	日本史探究	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、時期や年代の推移や相互の関連や現在とのつながりなどに着目した考察を設定し、広い視野を持つ力を育成する学習活動を行う。	単元の最後で設定されたまとめを活用し、その時代の情報を捉えさせながら自ら振り返る活動を行った。また、現代までのつながりについて、宗教や政策が現在の日本とどのようにつながっているかを考察させることにより、教科書の内容と現在の事象をつなげるようになった。	他者の考えに他者から驚きや感動の声があがることがあり、自分とは異なる視点や感性を感じる機会となっていたと考えられる。更に、自分の考えの深まりを認識させるために、他者の意見に触れて自分の考えがどのように深まったか、生徒自身に確認させた。
	世界史探究	国際社会の成り立ちについて、「時代(紀)・諸地域(横)のつながり」「個人と他者のつながり」を意識した活動・問いを授業ごと・単元ごとに設定し、それに基づいた学習活動を行う。	探究を通してそれぞれの地域についてその時代の特徴を理解させることを重視し、単元の終わりにはその時代の他地域との比較や国際関係について、論理的に思考させる活動を行った。また、それぞれの学習内容と今日の世界とどのようにつながっているかを家庭に学習させることで、自分たちの考えを整理して相手に正しい情報を伝えるという作業は、グローバル社会を生き抜く上で必要な力であると考えた。そのため、た問題点を解決だけでなく、情報を共有する時間を積極的に設けた。また、ロイロートを活用し他者の解答を見ることがによって色々な問題解決へのアプローチを考える機会を設けた。	他者の考えに他者から驚きや感動の声があがることがあり、自分とは異なる視点や感性を感じる機会となっていたと考えられる。更に、自分の考えの深まりを認識させるために、他者の意見に触れて自分の考えがどのように深まったか、生徒自身に確認させた。
	公共	他者との意見交換及び意見共有の時間を積極的に設定する。また、他者の意見から新たに学んだことを記録に残す活動を行う。	他者との考え方を共有し、相談する時間を設け、自らの考えを整理して相手に正しい情報を伝えるという作業は、グローバル社会を生き抜く上で必要な力であると考えた。そのため、た問題点を解決だけでなく、情報を共有する時間を積極的に設けた。また、ロイロートを活用し他者の解答を見ることがによって色々な問題解決へのアプローチを考える機会を設けた。	他者の考えに他者から驚きや感動の声があがることがあり、自分とは異なる視点や感性を感じる機会となっていたと考えられる。更に、自分の考えの深まりを認識させるために、他者の意見に触れて自分の考えがどのように深まったか、生徒自身に確認させた。
数学	政治・経済	時事問題のスピーチを実施することで、相互理解の一助とする。	12月まで毎時間3名、スライドを利用してスピーチ(問題、自分の考えを含む)を実施した。	他者の考えに他者から驚きや感動の声があがることがあり、自分とは異なる視点や感性を感じる機会となっていたと考えられる。更に、自分の考えの深まりを認識させるために、他者の意見に触れて自分の考えがどのように深まったか、生徒自身に確認させた。
	数学 I	数学が国際的な学問であることを理解し、その理解を深めるために、教員と生徒間や生徒同士の対話的な活動を通じて問題解決力や相互理解を促進する授業展開を行う。	他者との考え方を共有し、相談する時間を設け、自らの考えを整理して相手に正しい情報を伝えるという作業は、グローバル社会を生き抜く上で必要な力であると考えた。そのため、た問題点を解決だけでなく、情報を共有する時間を積極的に設けた。また、ロイロートを活用し他者の解答を見ることがによって色々な問題解決へのアプローチを考える機会を設けた。	他者の考えに他者から驚きや感動の声があがることがあり、自分とは異なる視点や感性を感じる機会となっていたと考えられる。更に、自分の考えの深まりを認識させるために、他者の意見に触れて自分の考えがどのように深まったか、生徒自身に確認させた。
	数学 II	数学が国際的な学問であることを理解し、その理解を深めるために、教員と生徒間や生徒同士の対話的な活動を通じて問題解決力や相互理解を促進する授業展開を行う。	他者との考え方を共有し、相談する時間を設け、自らの考えを整理して相手に正しい情報を伝えるという作業は、グローバル社会を生き抜く上で必要な力であると考えた。そのため、た問題点を解決だけでなく、情報を共有する時間を積極的に設けた。また、ロイロートを活用し他者の解答を見ることがによって色々な問題解決へのアプローチを考える機会を設けた。	他者の考えに他者から驚きや感動の声があがることがあり、自分とは異なる視点や感性を感じる機会となっていたと考えられる。更に、自分の考えの深まりを認識させるために、他者の意見に触れて自分の考えがどのように深まったか、生徒自身に確認させた。
	数学 III	数学が国際的な学問であることを理解し、その理解を深めるために、教員と生徒間や生徒同士の対話的な活動を通じて問題解決力や相互理解を促進する授業展開を行う。	他者との考え方を共有し、相談する時間を設け、自らの考えを整理して相手に正しい情報を伝えるという作業は、グローバル社会を生き抜く上で必要な力であると考えた。そのため、た問題点を解決だけでなく、情報を共有する時間を積極的に設けた。また、ロイロートを活用し他者の解答を見ることがによって色々な問題解決へのアプローチを考える機会を設けた。	他者の考えに他者から驚きや感動の声があがることがあり、自分とは異なる視点や感性を感じる機会となっていたと考えられる。更に、自分の考えの深まりを認識させるために、他者の意見に触れて自分の考えがどのように深まったか、生徒自身に確認させた。
	数学 A	数学が国際的な学問であることを理解し、その理解を深めるために、教員と生徒間や生徒同士の対話的な活動を通じて問題解決力や相互理解を促進する授業展開を行う。	他者との考え方を共有し、相談する時間を設け、自らの考えを整理して相手に正しい情報を伝えるという作業は、グローバル社会を生き抜く上で必要な力であると考えた。そのため、た問題点を解決だけでなく、情報を共有する時間を積極的に設けた。また、ロイロートを活用し他者の解答を見ることがによって色々な問題解決へのアプローチを考える機会を設けた。	他者の考えに他者から驚きや感動の声があがることがあり、自分とは異なる視点や感性を感じる機会となっていたと考えられる。更に、自分の考えの深まりを認識させるために、他者の意見に触れて自分の考えがどのように深まったか、生徒自身に確認させた。
理科	数学 B	数学が国際的な学問であることを理解し、その理解を深めるために、教員と生徒間や生徒同士の対話的な活動を通じて問題解決力や相互理解を促進する授業展開を行う。	他者との考え方を共有し、相談する時間を設け、自らの考えを整理して相手に正しい情報を伝えるという作業は、グローバル社会を生き抜く上で必要な力であると考えた。そのため、た問題点を解決だけでなく、情報を共有する時間を積極的に設けた。また、ロイロートを活用し他者の解答を見ることがによって色々な問題解決へのアプローチを考える機会を設けた。	他者の考えに他者から驚きや感動の声があがることがあり、自分とは異なる視点や感性を感じる機会となっていたと考えられる。更に、自分の考えの深まりを認識させるために、他者の意見に触れて自分の考えがどのように深まったか、生徒自身に確認させた。
	数学 C	数学が国際的な学問であることを理解し、その理解を深めるために、教員と生徒間や生徒同士の対話的な活動を通じて問題解決力や相互理解を促進する授業展開を行う。	他者との考え方を共有し、相談する時間を設け、自らの考えを整理して相手に正しい情報を伝えるという作業は、グローバル社会を生き抜く上で必要な力であると考えた。そのため、た問題点を解決だけでなく、情報を共有する時間を積極的に設けた。また、ロイロートを活用し他者の解答を見ることがによって色々な問題解決へのアプローチを考える機会を設けた。	他者の考えに他者から驚きや感動の声があがることがあり、自分とは異なる視点や感性を感じる機会となっていたと考えられる。更に、自分の考えの深まりを認識させるために、他者の意見に触れて自分の考えがどのように深まったか、生徒自身に確認させた。
	物理基礎	物理学が国際的な学問であることを理解する。またその理解と学びを教員と生徒間や、生徒間と対話的な活動からの相互理解を可能とする授業展開を行う。	海外の復習用教科書の練習定着問題に取り組ませた。また、物理の変数の根拠となるテクニカルタームを変数の学習と同時に紹介し、テクニカルタームの頭文字が変数になっているケースが多いことを知ることから、物理学がグローバルな客観性をもち「世界中誰でもが過試が可能である」とを自覚してもらった。加えて、色分けした選択問題予想カードを作り、持ち回しカードの提出箱を皆で見ながら、他の生徒の解答との比較から、自分の回答を振り返る機会を設け、自らの考えを再検討する機会を設けた。	グローバル教育指定校であることを知って入学してきた生徒たちだけあって、日本語で学んだ既知の物理の知識を用いて、文法にこだわらず内容の意義をしる内容理解ができる体験をすることは、意欲を盛り上げるために有効であった。また、変数を単語からの根拠で記憶できるように、生徒たちは新鮮であったし、公式把握に役立っているようだった。これら英語教材活用は、細部にこだわらず大局的で正確な意味把握をまず優先する向き合い方を身に付けている一助となった。カードの色分けを活用した他者理解と自己検閲も、生徒たちの競争心を活用できて、集中力向上に役立っていたように思われる。
	物理	物理学を学ぶことで、複雑な問題や国際的な課題を解決するスキルを身に付ける。教員と生徒、生徒同士、教材(特に実験・観察)との相互作用を基本とした授業づくりを行う。これにより、主体的・対話的に深い学びを促進する。	海外の社会人のための復習教材図書の練習定着問題に取り組ませた。物理の変数の根拠となるテクニカルタームを学習させ、グローバルな客観性が物理学にはあり、世界の誰かが再実験可能な学問であることを自覚させた。また、意外性のある実験や練習問題を精選し、取り組ませることで、質問の時間を多くし、また生徒に準手させ、競争心を掻き立て、自分の解答への筋道を振り返り再検討する機会を設けた。	海外のテキストの英語の練習問題は、生徒たちの英語理解の自信につながったようである。また、受験に向けて3年間に学んだ公式を再確認し、改めて根拠を知ることが役に立った生徒がいた。更に、準手や色付きロイロカードにより正答率を確保することは、自分の力を振り返るよい機会となった。
	化学基礎	化学的な知識を活用し、日々の生活での問題解決や環境課題を理解するスキルを身に付ける。実験・観察をおとして、生徒間での主体的・対話的な学びと知識の集積・理解を促す授業展開を行う。	化学的な知識を活用し、日々の生活での問題解決や環境課題を理解するスキルを身に付ける。実験・観察をおとして、生徒間での主体的・対話的な学びと知識の集積・理解を促す授業展開を行う。	実験結果をグループで共有し、他者の理解を共有することで実験を通した科学的な見方や知識の集積を図ることができた。
保健体育	化学	化学が学際的な領域であることを理解し、化学的な知識を活用して国際的な環境課題を理解するスキルを身に付ける。教材の活用を基本とした生徒間の対話的な活動から知識の集積と理解を促す授業展開を行う。	化学的な知識を活用した実験・観察をおとして、生徒間での主体的・対話的な学びと、知識の集積、問題点を理解するスキルを身に付けた。	実験結果をグループで共有し、他者の理解を共有することで科学的な知識の集積と思考の醸成につなげることができた。
	生物基礎	日常生活と社会との関連をたながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てる。また、生徒と対話を大切にしながら、生徒が主体的に学ぶ姿勢を養う授業を展開する。	生物学に対して理解を深めるため、授業の導入部に工夫を凝らし、自主的・意欲的に取り組める教材を作成した。日常生活でみられる自然の事象について科学的に解決を導くことができるよう、観察や実験を行った。レポート提出やグループでのアクティブラーニングを行うことで学びを振り返り、自らの考えを調整しながら主体的に学習し、発信しようとする技術が身に付くよう取り組ませた。また、課題に取り組みする意欲的な学びに取り組ませた。	身近な自然事象の検証から生物学の導入をすることで、科学的な見方や考え方の啓蒙を図ることができた。実験レポートや演習問題の解法を各自まとめ、それをグループで共有し、他者と理解の仕方と共有することで生徒の言語表現活動の醸成につながることができた。
	生物	生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てる。また、生徒と対話を大切にしながら、生徒が主体的に学ぶ姿勢を養う授業を展開する。	生物学に対して理解をさらに深めるため、授業の導入部に工夫を凝らし、自主的・意欲的に取り組める教材を作成した。日常生活でみられる自然の事象について科学的に解決を導くことができるよう、観察や実験を行った。レポート提出やグループでのアクティブラーニングを行うことで学びを振り返り、自らの考えを調整しながら主体的に学習し、発信しようとする技術が身に付くよう取り組ませた。また、課題に取り組みする意欲的な学びに取り組ませた。	生物学の興味・関心をさらに発展させるため、最近のノーベル賞の研究グループ等の話題も交え、科学的な見方や考え方の啓蒙を図ることができた。実験レポートや演習問題の解法を各自まとめ、それをグループで共有し、他者と理解の仕方と共有することで、自らの考えを調整しながら主体的に学び、発信する技法を身に付けた。
	体育	体育・スポーツに対し様々な課題を持つ他者と協働する中で課題発見・解決を相互に行い、主体的に学ぶ姿勢を伸ばすことができる授業を展開する。	個々の課題練習やチームでの作戦会議の場において他者との意見や交換する場を設けた。また自身の技術習得の過程や重要なポイントを言語化させ、他者の課題発見・解決に貢献できるように授業を展開した。	他者に伝えることができる知識が身に付いたことで、協働的な学びの場を多くすることができた。併せて個々の技術が高まり、新たな課題発見へとつながることができた。さらに多くの人数での協働的な学びにおいて自身の考えを表現し、高められるような発聲できる主体的な言葉へとステップアップさせていく。
	保健	自他の健康や環境づくりに対し、ベアやグループでの学習において他者の意見を尊重し、考えを深める学習を展開する。	自他の健康課題や社会的な取り組みについて、意見共有する場を多く設けた。またベアやグループ1つ1つの課題に取り組む展開を通して、他者の意見を取り入れやすい授業展開を実現した。	社会的な対策に対して自身の住む地域ごとの違いや、それぞれの視点の違いから実生活に活かせる深い学びにすることができた。1つの健康課題に対して様々な視点で考える力を身に付けることができた。
芸術	音楽 I	生徒が親しみやすい題材を取り入れ、積極的にグループワークを取り入れながら強弱や速度記号が楽曲にどのように作用しているのかを感受することで知識を取り入れ、演奏・創作・鑑賞活動に自ら知識を生かす活動を行う。	題材には、生徒が親しみやすい題材(楽曲)を取り入れた。また、歌唱や演奏活動ではグループでの活動を多く取り入れ、活動の内容によってグループの人数を変更しながら行った。生徒が知識を身に付ける際には、実際に音楽員が演奏することや演奏動画を活用し、生徒が音楽家になった知識を身につけるように取り組ませた。	生徒が親しみやすい題材を踏まえて、主体性を持った学びを行う場面が多く見られた。また、グループ活動では活動によって人数設定を変更することで有効な対話的な活動を行うことが出来た。さらに生徒が実践を行った知識を取り入れることで生徒がさまざまな知識や技能の積み重ねを身につけるよう取り組ませた。
	美術 I	インターネット動画や画像を駆使し、世界のたくさんの美術作品に触れ、その文化的な背景を理解し、こちらからも発信する。作業の授業ではなく、創造の授業であることを強く意識して行う。	インターネット動画や画像を駆使し、世界のたくさんの美術作品に触れ、その文化的な背景を理解し、こちらからも発信する。作業の授業ではなく、創造の授業であることを強く意識して模範を避けるように厳しく取り組んだ。	インターネットで世界のたくさんの美術作品に触れ、その文化的な背景を理解し、自作品との比較を行い、作業の授業ではなく、創造の授業であることを意識して背制活動に取り組んでいた様だ。
	美術 II	インターネット動画や画像を駆使し、世界のたくさんの美術作品に触れ、その文化的な背景を理解し、こちらからも発信する。作業の授業ではなく、創造の授業であることを強く意識して行う。	インターネット動画や画像を駆使し、世界のたくさんの美術作品に触れ、その文化的な背景を理解し、こちらからも発信する。作業の授業ではなく、創造の授業であることを強く意識して模範を避けるように厳しく取り組んだ。	インターネットで世界のたくさんの美術作品に触れ、その文化的な背景を理解し、自作品との比較を行い、作業の授業ではなく、創造の授業であることを意識して背制活動に取り組んでいた様だ。
	美術 III	インターネット動画や画像を駆使し、世界のたくさんの美術作品に触れ、その文化的な背景を理解し、こちらからも発信する。作業の授業ではなく、創造の授業であることを強く意識して行う。	インターネット動画や画像を駆使し、世界のたくさんの美術作品に触れ、その文化的な背景を理解し、こちらからも発信する。作業の授業ではなく、創造の授業であることを強く意識して模範を避けるように厳しく取り組んだ。	インターネットで世界のたくさんの美術作品に触れ、その文化的な背景を理解し、自作品との比較を行い、作業の授業ではなく、創造の授業であることを意識して背制活動に取り組んでいた様だ。
	書道 I	古典作品や自分の作品を生徒同士で互いに鑑賞する中で他者の感じ方や表現方法を知り、自身の表現を試行錯誤する活動を行う。	制作過程の作品について、グループに分かれ、どこがどうだからどんな感じがするか鑑賞しあい、書道ではどこをどのように表現するか検討しワークシートに記入する時間をとった。	練習過程で生徒同士の感じ方、表現の仕方をやりとりすることで、練習作品から書道作品への変化が大きく、有効であったと考えられる。振り返りシートで、「自分が意図していた工夫を友達に言い当ててくれたのでうれしかった」などの感想もみられ、生徒同士士の交流や理解も深まったと感じた。
外国語	英語コミュニケーション I	各単元の導入で題材に関する生徒の意見や考えを表現させるとともに、題材について理解させた上で生徒の意見や考えを問う発問をすることで、他者の価値観を認め、自分の考えを表現する姿勢を養う。	単元の導入と学習終了時の2時点で題材に関する意見・考えを問う発問を、それに対する意見・考えをベアやグループ・クラス全体で共有した。	従前比べて、様々なトピックに対して自分の意見を英語で表現できる姿勢は養ってきた。今後の課題としては、他者の意見・考えを単に聞くだけでなく、それに対して理由を聞いて、自分との違いについて意見交換したりすることにより、他者の価値観を尊重・理解しようとする姿勢を養成していく必要がある。
	英語コミュニケーション II	日常的な話題・社会的な話題を英語の言語活動を通じて学習することで、幅広い英語の運用能力及び論理的な思考力を育てる。教材のパーソナライゼーションを根幹とし、社会で起きていることを理解することでより深い自己理解につなげる。授業貢献への振り返りを行い、授業の主体者であるという自覚を持たせ、授業の質を高める。	「内容・フィードバック・語彙文法」の3観点によるルーブリックを用いたスピーチテストを導入し、組織的な発信力の強化を実現した。また、定期考査では暗記主体の穴埋め問題を廃し、徹底した読解力と語彙の定着を問うオールラングシユでの作問に刷新した。	従来の暗記主体の穴埋め問題を完全に廃し、徹底した読解力と語彙の定着を多角的に問うオールラングシユでの作問を導入したことで、単なる知識の再生ではなく、初見のテキストを論理的に読解・文章の内容で語彙を運用できる本質的な英語力を測定することができた。この変更は生徒に解離感を与え、学習意欲とエンゲージメントを大きく刺激した。結果として、実用的な英語運用能力の向上に顕著な効果が見られた。
	英語コミュニケーション III	多様性社会における相互理解と共感性を、それに基づく様々なテーマの教材を読み、ベア・グループ・発表活動等を通じて高める。	多文化理解や社会課題を扱う英文教材を用い、意見交換・発表活動などを通じて多様な価値観への理解を深めた。	生徒が他者の考えを尊重し、自分の意見を根拠をもって英語を表現する場面がみえてとれ、授業の研究テーマに関わって生徒の相互理解と共感性の向上につながることができた。3年間の積み重ねもあり、例年以上の英検準1級、英検2級合格者を輩出することができた。
	論理・表現 I	特定の文脈の中で必要な情報を抜いたり話したりして相手に伝える活動を各項目で実施し、様々な表現や文法を学ぶことと、その文脈の中で相手が伝えようとしていることをくみ取り出すことを通してより豊かなコミュニケーションにつなげる。	特定の文脈の中でより良いコミュニケーションのために活用できる表現や文法を学び、実際に書いて話したりする活動を行った。各課での導入や定着のための言語活動や、パフォーマンステストにおいて、場面や文脈の設定を行い、表現や文法を適切に活用する機会とした。	文法や表現を習得する意義を実感する機会を各課で設けることができた。今後は表現の幅を広げていくことができると、表現力やコミュニケーション能力を高めるような活動を行う。
	論理・表現 II	日常的な話題や社会的な話題について、必要な語彙や表現、文法を学ぶ。そして、スピーチやプレゼンテーションを通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、意見や主張を行うことができる。	SDGsのテーマについて探究する力を養うとともに、論理的に考えアウトラインやドラフトを作成し、自分の意見や主張を書きあげて発表し、よりよいプレゼンテーションするための練習を重ね、意見や主張の仲間前で発表する機会をもった。	聞き手を意識しながら発表しようとする姿が見られ、SDGsの課題について自分事として解決策を考える力が身に付いた。説得力のあるプレゼンテーションを行うために、伝えたい内容を論理的に構成し、効果的に話す力を今後さらに高める必要がある。
論理・表現 III	スピーチやプレゼンテーションなどの活動をおとして、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、意見や主張などを論理的な構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができる。	様々な場面で使用する表現を身に付けて、各レッスンの表現活動を行うとともに、共通のテーマでのプレゼンテーションを複数回実施した。生徒達は3年間でスライドを用いたプレゼン能力が向上した事を実感させ、互いの英語の発表を聞いて十分に理解できると自信をつけた。	多角的な背景知識の習得と読解演習は、客観的な技術向上において極めて顕著な成果を上げた。GTECのスコア分析の結果、非履修生達の平均比の伸びが1人当たり平均32.7点であったのに対し、本科目履修生は平均18.84点を記録し16点以上の有意な差が生じた。専門性の高い題材を英語で読解・実践し、生徒のエンゲージメントを刺激し、本質的な英語運用能力を飛躍的に伸ばしたことがデータから裏証された。	
家庭	コミュニケーション I	身近な話題について会話を継続する帯活動を通して相手の答えにリアクションをしたり、質問をしたりしてやり取りを続ける能力を養うとともに、プレゼンテーションを通して他者の価値観に触れ、自分の考えを再構築する姿勢を養う。	毎授業の始めに日常的な話題についての会話を継続する帯活動を行うことで、即興での会話を継続する力を養うとともに、相手の意見を受け止めた上で自分の考えを再構築する機会とする。	会話の内容を整理する力や、相手に伝わりやすい表現を考える力には向上がみられた。一方で、話しやすい空気を積極的につくったり、他者の考えをもとに考えを深めたりする点では課題がみられた。
	コミュニケーション II	SDGs(持続可能な開発目標)の題材を通して、世界の課題を自分自身の問題として捉え、より深く理解し行動を促す。SDGsに関する情報を身近なものとして捉え、自分自身の生活や行動と結びつけることでより主体的に課題解決に取り組む姿勢を育む。	様々な知識の習得に留まらず、最先端の経済理論やテクノロジー、人権問題などを英語で深く読み解くことで、多角的な視点を得る機会を得た。更に自分の考えを整理して相手に正しい情報を伝えるという作業は、グローバル社会を生き抜く上で必要な力であると考えた。そのため、た問題点を解決だけでなく、情報を共有する時間を積極的に設けた。また、ロイロートを活用し他者の解答を見ることがによって色々な問題解決へのアプローチを考える機会を設けた。	多角的な背景知識の習得と読解演習は、客観的な技術向上において極めて顕著な成果を上げた。GTECのスコア分析の結果、非履修生達の平均比の伸びが1人当たり平均32.7点であったのに対し、本科目履修生は平均18.84点を記録し16点以上の有意な差が生じた。専門性の高い題材を英語で読解・実践し、生徒のエンゲージメントを刺激し、本質的な英語運用能力を飛躍的に伸ばしたことがデータから裏証された。
	コミュニケーション III	SDGs(持続可能な開発目標)の題材を通して、世界の課題を自分自身の問題として捉え、より深く理解し行動を促す。SDGsに関する情報を身近なものとして捉え、自分自身の生活や行動と結びつけることでより主体的に課題解決に取り組む姿勢を育む。	様々な知識の習得に留まらず、最先端の経済理論やテクノロジー、人権問題などを英語で深く読み解くことで、多角的な視点を得る機会を得た。更に自分の考えを整理して相手に正しい情報を伝えるという作業は、グローバル社会を生き抜く上で必要な力であると考えた。そのため、た問題点を解決だけでなく、情報を共有する時間を積極的に設けた。また、ロイロートを活用し他者の解答を見ることがによって色々な問題解決へのアプローチを考える機会を設けた。	多角的な背景知識の習得と読解演習は、客観的な技術向上において極めて顕著な成果を上げた。GTECのスコア分析の結果、非履修生達の平均比の伸びが1人当たり平均32.7点であったのに対し、本科目履修生は平均18.84点を記録し16点以上の有意な差が生じた。専門性の高い題材を英語で読解・実践し、生徒のエンゲージメントを刺激し、本質的な英語運用能力を飛躍的に伸ばしたことがデータから裏証された。
情報	家庭基礎	生活に関わる価値観や文化について、過去から現在に至るまでの変化や経緯、日本と諸外国との差異・共通点を学ぶことを通して、自分自身のこれまでの生活を振り返り、より良い生活や社会の構築に向けて、考えをまとめて表現する活動を行う。	題材の導入時に毎回、これまでの自分自身の衣食住の生活や家族・家庭生活について振り返って記述する時間を設けた。また、生活を他者と共有することで、異なる生活文化や価値観に触れさせ、自身の生活全体を見つめなおさせたい。その上で、生活をより良くするための科学的な知識、及び、日本や諸外国における文化的・歴史的な背景の理解へとつなげた。	題材のまとめとして実施したレポートの生徒の記述から、生活経験や価値観を振り返って他者と共有することで、自分自身の日常生活が常識や普通のことだけでなく、多様な価値観やライフスタイルごとに気付いた根拠が向った。今後は、多様な知識や科学的な知識、文化的・歴史的背景を理解することを通して、自分自身の生活をより良く改善していくかを考慮を取り入れる必要がある。
	情報 I	2年生は台湾修学旅行に向けて、年間を通じてベア・グループワークを行いながら、台湾についての基礎知識や社会問題に目を向け、他者の意見を共有する機会を設けた。また、第4章ネットワークにて、1学年時の「家庭基礎」の教科横断的な学びを実施し、AI(人工知能)を応用した、生徒同士の味覚の共有をグループ学習として実施する。	台湾修学旅行に向けた取組みは、年間4回のグループワークで第4章ネットワークの単元である「オープンAI」をキーワードに行い、各自の基礎知識や社会問題について他者の意見を取り入れながら発表資料に落とし込むように指導を行った。	家庭科と協働した調理実習では家庭基礎での基礎知識を元にして、情報「使い始めたChatGPTから得られた知識の広範囲を、生徒1人ひとりの体験から学び、上記発表資料に落とし込むことができた。次年度に向けて、台湾実習に際する短縮可能な単元を改善し、生徒の学びに繋がっている授業展開を目指す。
	情報 II	情報と情報技術を活用した問題の発見・解決方法をグループ活動の中で探求し考察する。また、情報化の進展が社会の中で果たす役割や影響、そして情報に関する法律・規制や手法、個人が果たす役割や責任等についての個人の意見を発表することで、意見の共有を図る授業展開を行う。	各単元において、3〜4名のグループワークを行いながら授業展開をした。各生徒の情報技術の習得度を情報1から引き上げ、社会問題を目的とした実社会で生きる情報技術の習得を行った。また、グループ発表は個人発表を行うことで、他者の考えを理解する機会を設け意見を共有するようになった。	家庭科を通じて、卒業制作である「問題解決」のグループワークを行った。社会問題を複合的に考えようとする活動が1つでいいことを理解し、あらゆる方向から解決方法を考え出す力を培った。次年度に向けて、問題解決I・I技術を用いて、効果的に解決できるような授業展開を目指す。
家庭	家庭基礎	保育や教育に関わる職業人に基礎として、保育観・児童観の個人や、現代社会の保育ニーズとその背景について理解し、子どもが知的好奇心や探求心を伸ばすための関わり方を考えて表現する活動を行う。	保育士試験の筆記試験・実技試験を参考にした小テストや課題を実施し、保育士や幼稚園教諭・小学校教育論として乳幼児や児童と実際に関わることを想定した知識・技術の習得を行った。また、生徒自身が保育者として「どのような保育を行いたいか」、「どのような子どもと関わりたいか」を年間の学習活動の中で一貫した考えさせ、記述させる活動を行う。	保育士試験の筆記試験・実技試験を参考にした小テストや課題は、職業人としての実践的な能力の向上だけでなく、現代社会の保育のニーズを理解することにもつながった。また、実技課題の実施についても、生徒同士で相互にアドバイスをする活動を取り入れたことで、保育者としての関わり方や技能を向上させる効果が見られた。